

## 知事と区市町村長との意見交換会

令和3年10月28日(木)

11時25分から11時55分

○行政部長 それではまだ少し時間が早いのですが、参加者が揃いましたので、早速意見交換を始めさせていただきたいと思います。

本日、各区長の皆様には知事との意見交換を行っていただく予定でしたが、既に御案内のとおり、知事が静養されることとなったため、副知事が承らせていただきたいと思います。

それでははじめに副知事から一言、お願いいたします。

○副知事 区長(の皆様)、おはようございます。副知事の黒沼でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今、行政部長からお話させていただきましたが、本来であれば小池都知事が区長の皆様方と意見交換をさせていただく予定でしたが、過労のため本日から静養することとなりました。

恐れ入りますが、知事の代理として総務局を所管する私の方で、本日の意見交換を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは意見交換に先立ちまして、一言御挨拶をさせていただきます。

はじめに東京2020大会につきましては、コロナ禍で一年間の延期、そして無観客開催という、非常に極めて困難を極める中での開催となりましたが、各区の皆様のお協力によりまして成功を収めることができました。改めまして、各区長の多大なる御支援と御協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

また、新型コロナウイルス感染症との戦いですが、この一年半以上にわたる長きの間、都民の命と暮らしを守り、感染の拡大を何としても食い止めるという中で、まさに地域の最前線で各区の皆様には対策に取り組んでいただいております。東京都とも連携をいただきながら、区民に寄り添い、日々尽力されていることに厚く御礼申し上げます。

現在、新規の陽性者数は減少傾向にございますが、三密の回避、基本的な感染対策の徹底、これを継続していく必要がございます。

同時に感染が収まっている今だからこそ、もし第6波が襲ってきてもこれに耐えられるように、しっかりと備えを講じたうえで社会経済活動を再生・回復に繋げていく、こうした取組が必要でございます。引き続き皆様方と一緒に、このコロナとの戦いを続けていきたいと考えております。

そしてその先、コロナ禍を乗り越えた先でございますが、首都東京が発展していくためには、本日も地震がありまして少しびくっとしましたけれども、震災対策等との複合災害への危機管理、更にはバリアフリーをはじめとした大会のレガシー、これが発展の礎になると考えてございます。

そして持続可能な成長を遂げていくためのサステナブル・リカバリーの視点から、東京都と各区の皆様との連携を一層強靱なものにしていく必要がございます。

本日は限られた時間ではございますが、区長の皆様と忌憚のない意見交換・御要望をお伺いできればと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○行政部長 それでは豊島区の高野区長から、御発言をお願いいたします。

○豊島区長 おはようございます。豊島区長の高野之夫でございます。

冒頭に小池都知事、体調崩されたということで心配をしております。一日も早い御回復をお待ちしております。

それでは豊島区におきましても、他区同様、100年に一度の災禍である新型コロナウイルス感染症対策に日々向き合っており、最前線で戦っております。誠に残念至極でございますが、共に歩んできた同志、区政の中心的役割を担ってきた後輩がコロナに負けてしまいました。まさかの突然の訃報、今でも信じられません。それだけにコロナの危機を身近に感じ、まさに真剣勝負の戦いでもあります。

豊島区では豊島区方式で誰一人取り残さないワクチン接種大作戦を執行し、着実にその成果を挙げておりますが、是非東京都におきましてはワクチンの接種をはじめ、保健所の支援、商店街振興、一人親世帯等の困窮世帯への財政的支援の継続はもちろんのこと、今まで以上に更なる連携強化をよろしくお願いしたいと思います。

それでは三点についてお願いさせていただきます。

私は区長就任以来、大変厳しい財政状況にもぶれることなく、終始文化を基調としたまちづくりを推進してまいりました。

豊島区の文化によるまちづくりは、文化創造都市宣言から始まり、文化庁長官表彰、そして2019年の日本を代表しての東アジア文化都市では見事な成果を収めることができました。

こうした流れを加速させ、文化を次世代に継承するために、昨年11月1日をとしま文化の日として、自治体として全国で初めて制定をいたしました。

この記念日を起点として、区民お一人お一人の力を結集し、オールとしまによる「国際アート・カルチャー都市」、「SDGs 未来都市」の実現を目指してまいりたいと思います。

今、コロナ禍の大きな影響を受け、閉塞感のある沈滞した社会状況でもあります。こうした時だからこそ、文化の灯をともし続けなければなりません。まちが大きく変わった豊島区と東京都が共に力を合わせ、様々な文化活動を支援し、まちの元気を取り戻していきたいのであります。東京の中でも存在感のあるまちづくり（まち）を創りあげてまいりますので、東京都の絶大なる御支援をよろしくお願いいたす次第であります。

なお、来年は区制施行90周年を迎えます。単なる節目に終わることなく、更にもその先の100周年を見据えて、豊島の文化を世界に発信させたいと思います。

それでは次に池袋の再生について。池袋は5、6年前には想像できなかったほどに大きく変わっております。現在、池袋西口駅前の大規模な再開発事業は急ピッチで進んでおります。100年に一度の災禍であるからこそ、夢と希望を持ったまちの将来ビジョンを示すこと

が必要であります。

一日に乗降客 270 万人を誇る大ターミナル、豊島区の中心である池袋は百貨店が人を抱え込むエキブクロと揶揄されてきました。これを解消するため、今までの再開発には類を見ない、駅からまちに自然に人の流れが生まれるような開放的なサンクンガーデンを整備する、「池袋西口再開発ビジョン」が打ち出されました。

そしてこのサンクンガーデンを起点といたしまして、東京芸術劇場や野外劇場のグローバルリング、更に立教大学をも巻き込みながら駅周辺に賑わいを広げて、池袋らしいウォークアブルな環境を整備することで、まちの価値や魅力が高まってくるわけでございます。

小池知事もよく御存じの池袋西口での再開発は私の長年の悲願でもあり、準備組合の理事や地権者、大手デベロッパーとも緊密な協議をしております。

駅前の開発に終わらせることなく、池袋西口全体、そして池袋、豊島区全体へ波及するまちづくりになるよう、地元西口の方々と一体となって機運を高めてまいりたいと思います。

実現にいたるまでには様々な課題がございます。特に都市再生特別地区の都市計画の手続に当たりましては、東京都の御指導なくしてはなり得ませんので、是非とも強力な御支援をよろしく願いいたしたいと思っております。

それでは最後に「すずらんスマイルプロジェクト」について、お願いいたします（ご説明いたします）。

このプロジェクトは、コロナ禍で顕在化した貧困等の生きづらさを抱える若年女性を支援するため、知事の秘蔵っ子であります高際副区長をトップといたしまして、令和 3 年 1 月に女性職員が中心となり、新たに発足した横断的なプロジェクトであります。

今日はお隣に高際副区長も同席させていただいておりますが、若年女性への確かな支援に結び付けるため、民間支援団体との意見交換会を開催し、それぞれの特色を活かした支援の実施を目指しております。

これまで生理の貧困への女性職員のきめ細やかな視点を活かして、3 月に全国に先駆けて生理用品の緊急配布、8 月には公民連携によりまして無料ディスペンサーを区施設 3 か所に設置いたしました。

今年度は行政への情報が届きにくかった若い世代の女性へ情報発信や、気軽に立ち寄れる居場所づくり等に取り組んでまいります（取り組んでおります）。

SDGs の認定を受けた当区といたしましても、困難を抱える子供や若者を支援するプロジェクトも 7 月から始動し、本区の「子どもと女性にやさしいまち」への取組が、まさに新たなステージを迎えるわけであります。

今後も「誰一人取り残さない」、そして「誰もが主役になれるまち」に向けまして、強力に推進してまいります。是非とも東京都におかれましては、こうした新たな取組に目を向けていただき、都全体の問題としてリーダーシップを発揮していただくよう、お願い申し上げます。以上で私からの意見でございますので、よろしくお願い申し上げます。

○行政部長 高野区長、どうもありがとうございました。

それでは副知事から、お願いいたします。

**○副知事** 高野区長、ありがとうございます。様々な先駆的な取組を推進されておられまして、敬意を表するところでございます。

私からは最後にお話がありました、高際副区長をトップに進めていらっしゃるというお話の「すずらんスマイルプロジェクト」。まさに女性に視点を当てた先駆的な取組であるというふうに考えております。この点につきまして、私の方から発言をさせていただきます。

困難を抱える女性への支援についてでございますが、コロナ禍を通じまして、様々な悩みを抱える女性に必要な支援に繋いでいくことは極めて重要でございます。

都は女性が不安や悩みを抱え込むことなく、安心して暮らせるよう、重層的な相談体制でサポートする等、女性にしっかり寄り添いながら、きめ細やかな支援に取り組んでおります。

また、子供政策についてでございますが、「未来の東京」戦略の中では子供政策、子供を戦略の中核と位置付けまして、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援等、多様な取組を展開してございます。

本年3月には東京都子ども基本条例が成立いたしましたして、子供政策を総合的に推進すること等が規定されております。今後、子供との対話を通じました、子供目線に立った政策の強化を進めてまいります。

今後とも貴区をはじめといたしまして、区市町村との連携を更に強化し、女性が自分らしく輝ける社会、「こどもの笑顔でいっぱいのもち」の実現に取り組んでまいります。

その他の御意見・御要望等につきましては、総務局長の方から御発言をさせていただきます。

**○総務局長** 10月25日に総務局長に就任いたしました、村松でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず国際アート・カルチャー都市としまの推進でございます。としま文化の日を基軸といたしました文化振興につきまして、文化芸術は人々を支えて、感動や生きる喜びをもたらす、極めて重要なものと考えております。

現在、豊島区と共に開催中の東京芸術祭では、コロナ禍におきましても工夫をしながら、東京の芸術・文化の魅力を発信しているところでございます。

今後とも、区の東京建物ブリリアホールと都の東京芸術劇場を核といたしまして、東京の舞台芸術等を盛り上げていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

続きまして池袋の都市再生でございます。池袋につきましては、「未来の東京」戦略において、世界中から人を惹きつける国際アート・カルチャー都市の形成を将来像といたしまして、池袋駅周辺地域の再編整備に向けた取組を促進していくこととしております。

昨年10月には、豊島区では初めてとなります都市再生特別地区を東池袋一丁目地区で始めて、池袋の多様な文化を発展させ、世界に発信する文化体験施設とイベントホールを整

備することといたしました。

池袋駅西口地区の再開発に関しましても、「池袋駅コア・ゾーンガイドライン2020」にも沿ったまちづくりの推進に向けて、都といたしましても引き続き区の実施を支援いたしますとともに、事業者との協議を進めてまいります。よろしくお願い申し上げます。

○行政部長 高野区長、どうもありがとうございました。

○行政部長 それでは続きまして江戸川区の斉藤区長、御発言をお願いいたします。

○江戸川区長 江戸川区長の斉藤でございます。本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。限られた時間でありますので、早速江戸川区からの意見について説明させていただきます。

本日はこちらの三つのテーマについて、お話をさせていただきます。

まず一点目です。パラスポーツの支援です。江戸川区では誰一人取り残さないことを理念とする SDGs の取組を、高野区長同様進めておりまして、今年 SDGs 未来都市に認定されました。

SDGs は本区が目指す、共に生きるまちと理念を同じくするものです。今年度はそうした理念を表す条例も制定しました。

世界で初めて夏季オリンピック（※パラリンピックの誤り）を2回開催した都市、東京のレガシーとして、本区は都と一丸となって、誰もがスポーツに取り組める環境の整備に取り組んでいきたいと思っています。

本区はパラリンピックで実施された22競技を全て区内で体験できるように、環境を整えています。今後は人材育成や体験教室の開催等を、ソフト面においても更なる環境整備を進めていきたいと考えています。

スポーツや運動は健康づくりのためだけでなく、生きがいにもなり、豊かな人生を送ることに繋がります。究極の目標は、本区のまち全体が障害者スポーツセンターとなることです。

今後も引き続きハード・ソフト両面において、パラスポーツの更なる環境整備に対する支援をお願いいたします。

二点目です。気候変動に伴う災害対策です。まず、このスライドを見ていただきますと、赤い点線で囲まれているのが江戸川区です。ご覧のとおり、本区は三方を川と海に囲まれた水辺豊かなまちですが、一方で陸域の7割がゼロメートル地帯であるため、水害リスクの高いまちでもあります。ご覧の地図上の青色のエリアがゼロメートル地帯となっておりまして、そこに50万人以上が暮らしています。

ひとたび洪水や高潮による大規模水害が発生すると、このエリアでは2週間以上、浸水が続く恐れがあります。

これは昨年12月に公表された、東京都の高台まちづくりのイメージ図です。高台と堤防等、歩行者用のデッキで繋いで安全な場所へ避難できるように、それを目指したものです。

赤い丸で囲んだ鉄道駅を中心とした高台まちづくりのイメージを、江戸川区内で是非実現しようとしておりますが、具体的な場所は都営新宿線の船堀駅を中心としたエリアです。ご覧の地図が船堀駅を中心としたエリアですが、中央を横切るのが都営新宿線、左に荒川と中川が流れています。

現在、本区では7年後の完成を目指して、船堀駅の北側に新庁舎の建設計画を進めています。新庁舎建設と併せて、周辺の建物や駅等を黄色い実線で示した歩行者用のデッキで

繋いで、浸水しても中川の堤防まで歩いて避難できるようにしたいと考えています。

ところが左側の地図のとおり、歩行者用デッキをつたわって中川の堤防にたどり着いて、更に安全な葛西南部地区に移動しようとしても、赤いバツ印で示した箇所が堤防上にあります、これは橋によって遮られて通行ができません。

ちなみに右側の地図のとおり、区内全域では同様の箇所は 12 箇所あります。

例えば具体的にこちらは都道の葛西橋が中川堤防を越える箇所ですが、ご覧のとおり通り抜けができない状況になっています。

そこで、このように階段やスロープで堤防と橋を繋ぐことができれば、その先への避難や対岸への移動も可能となり、高台への避難が確実となります。

区としても高台まちづくりを進めておりますが、都が管理する堤防や橋梁が大規模水害時に安全な避難ルートとして機能するように、協力して検討を進めていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

三点目は自治体の DX です。本区は先ほど申し上げた新庁舎の建設を契機として、来庁しなくてもよい区役所の実現を目指しています。また、併せて出先機関のあり方等を含め、新たな時代の自治体像についても検討を進めているところです。

来庁しなくてもよい区役所の実現に向けては、現在、電子申請やオンライン相談等の環境整備、ローカル 5G の導入検討、AI の活用等を進めています。

都におけるデジタル化は既に小池都知事、宮坂副知事の下、強力に進めていただいておりますが、今後も都と区の更なる連携の下、推進を図っていくことが必要です。本区としても更に DX の推進に力を入れてまいります。

都におかれましても引き続き行政手続のデジタル化や、5G エリアの拡大、また AI 等の先端技術の活用を進めていただき、都民・区民の利便性の向上のため、連携して取り組んでいきたいと思っております。

最後に私の相棒からも一言、申し上げます。

○ロボホン 黒沼副知事、こんにちは。僕、ロボホン。これから江戸川区でお仕事のお手伝いをしていくんだ。区民の皆さんのために毎日頑張るよ。よろしくね。小池知事にお大事にと伝えてね。

○江戸川区長 聞こえましたか？江戸川区としてもこういったロボットの活用を行った、窓口サービスの充実にも努めていきたいと思っております。小池知事の日も早い回復を願っております。以上、駆け足であります江戸川区からの意見となります。ありがとうございました。

○行政部長 斉藤区長、どうもありがとうございました。

それでは副知事からお願いいたします。

○副知事 区長、ありがとうございます。ロボット君からの温かいメッセージも、本当にありがとうございます。小池知事にもしっかりとお伝えしたいと思っております。ありがとうございます。

今、区長からまずはパラスポーツ、それから河川管理、風水害に向けた災害対策、更に

はDXと、非常に東京都が今まさに進めています危機管理、レガシー、それからDX。これと軌を一にするような取組を果敢に進めていらっしゃるということ、よく分かりました。ありがとうございます。

私の方からは最後のDXについて、発言をさせていただきます。

行政のDXについては、現在都でも誰もがデジタルを活用したサービスの利便性を感じられる社会、これを実現するため、本年7月に策定いたしました「東京デジタルファースト推進計画」、これに基づきまして、着実かつ計画的な行政手続のデジタル化に取り組んでおります。

また、5G基地局の設置につきましては、通信事業者に都が保有するアセット、これはデータベース化で1万5,000アセットほどを今公開しておりますが、こうしたものの活用を促すことで、基地局の設置を後押ししてまいります。高速インターネット通信網の整備も更に加速させていくため、皆様もアセットの開放に取り組んでいただきたいと思います。

先端技術の活用でございますが、都で取り組んでいるAIチャットボットやAI-OCR等の活用により得られた知見やノウハウ、これを区市町村にも展開をしてみたいと考えております。

今年度開始をいたしました東京都・区市町村CIOフォーラム、こちらは江戸川区さんからも御出席をいただいておりますが、これらを活用しながら皆様と連携を密にしながら、東京全体のDXを積極的に推進してまいりたいと考えております。

その他の御要望等につきましては、総務局長からお答えいたします。

**○総務局長** それでは私の方から二点について、お話をさせていただきます。

まずパラスポーツの環境整備支援についてですけれども、都は区市町村が行うスポーツ事業に対しまして、誰もがスポーツに楽しめる環境を推進するため、ハード・ソフト両面からの支援を行っているところでございます。

更に今後、東京都障害者スポーツ大会におきまして、障害のある方とない方が一緒に参加し競い合う、オープン競技を新たに実施することといたしまして、都内におけるパラスポーツの更なる振興を図っているところでございます。

パラリンピック大会の成功を踏まえまして、今後も貴区をはじめとして区市町村と連携し、共生社会の実現に取り組んでいくこととしております。よろしく願いいたします。

続きまして気候変動に伴う災害対策についてです。

近年の大規模水害への対応に向けて、昨年、国と共に設置いたしました連絡会議で幅広い検討を重ね、12月に「災害に強い首都『東京』形成ビジョン」を公表いたしました。

本ビジョンの先行モデル地区として、江戸川区ではJR小岩駅周辺地区での高台まちづくりの推進、新庁舎建設に合せた船堀地区での高台まちづくりの検討等が位置付けられておりました。鋭意取り組まれていると承知をしております。

本年3月に連絡会議の下に設置いたしましたワーキンググループ等も活かして、都と区、及び国との強い連携の下、高台まちづくりを一層推進していけますよう、御協力のほどよろしくお願いを申し上げます。

今回の御要望のあった堤防上の避難ルート機能につきましても、江戸川区等と連携いたしまして、検討を進めてまいりたいと思っております。よろしく願い申し上げます。以上です。

○行政部長 それでは高野区長、斉藤区長、どうもありがとうございました。

最後に副知事から一言、お願いいたします。

○副知事 本日は区長の皆様から現場の声・実情を直接お伺いすることができまして、大変有意義な意見交換を行うことができました。

ただいまお伺いをいたしました貴重な御意見・御要望は私から責任を持って、小池都知事に伝えさせていただきます。

今回の御意見・御要望も踏まえまして、「未来の東京」の戦略の推進、あるいは来年度予算編成に当たっての施策事業の検討に取り組んでまいりたいと考えております。

今後も区の皆様としっかりと連携を携え、国難とも言えるこのコロナの危機をしっかりと乗り越えて、首都東京の持続的な発展に繋げていきたいと考えております。

本日はどうもありがとうございました。

○行政部長 それでは以上で終了いたします。本日は御多用のところ、どうもありがとうございました。